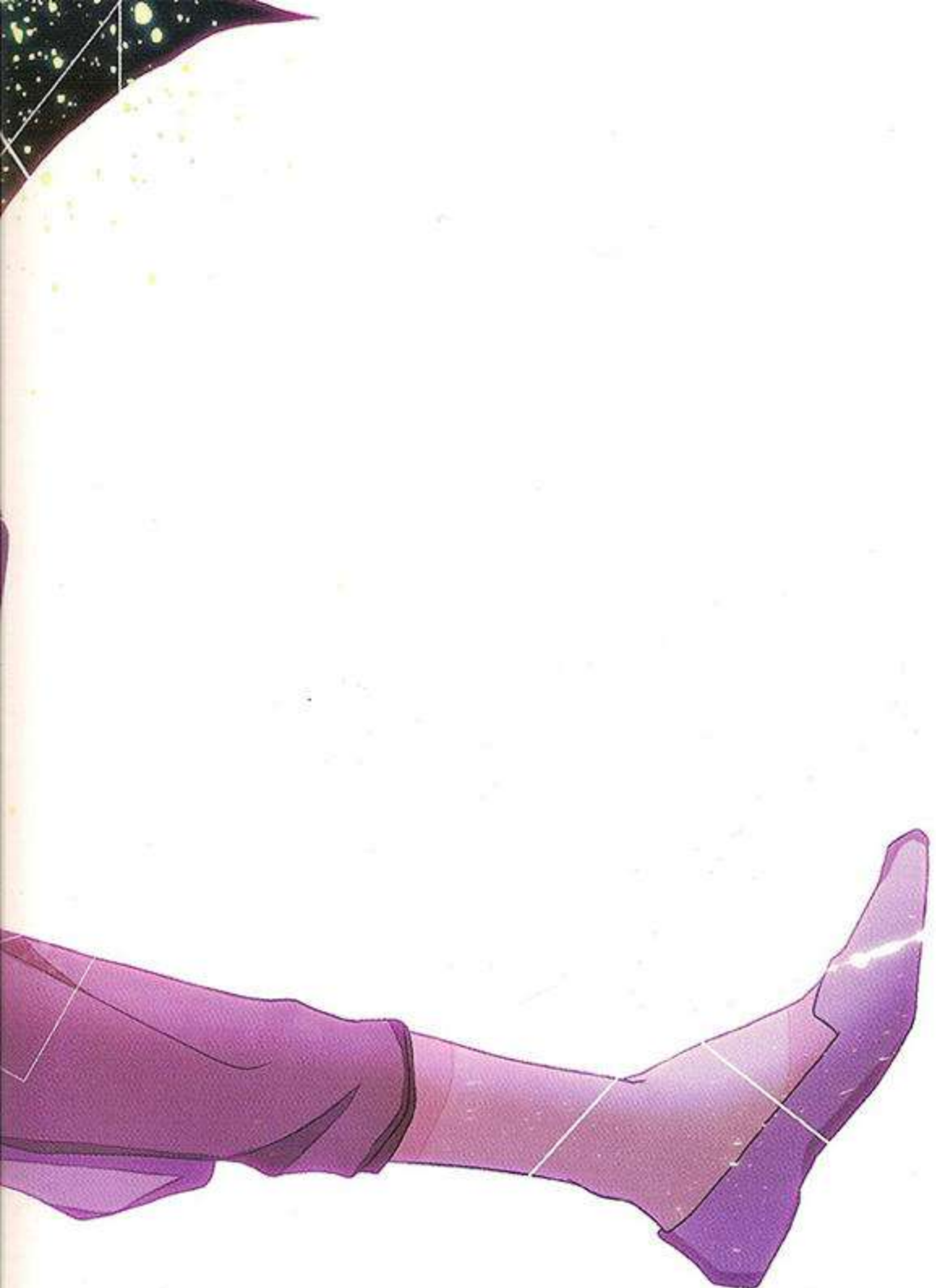




さよなら、
君のいる虚ろで美しい世界

R18




PSYCHO-PASS fanbook
avocado/TenshinAmaguri
2013.5.4
Kougami-Makishima

僕に向けられる殺意はすべて
大切なひとを護るための殺意

いつだってそうだった

殺しても殺しても、僕は
薄っぺらな絆をあぶり出す装置に過ぎず



：とんだ
道化だ
な

おまえの憎悪もまた
誰かのためのものなのだろう



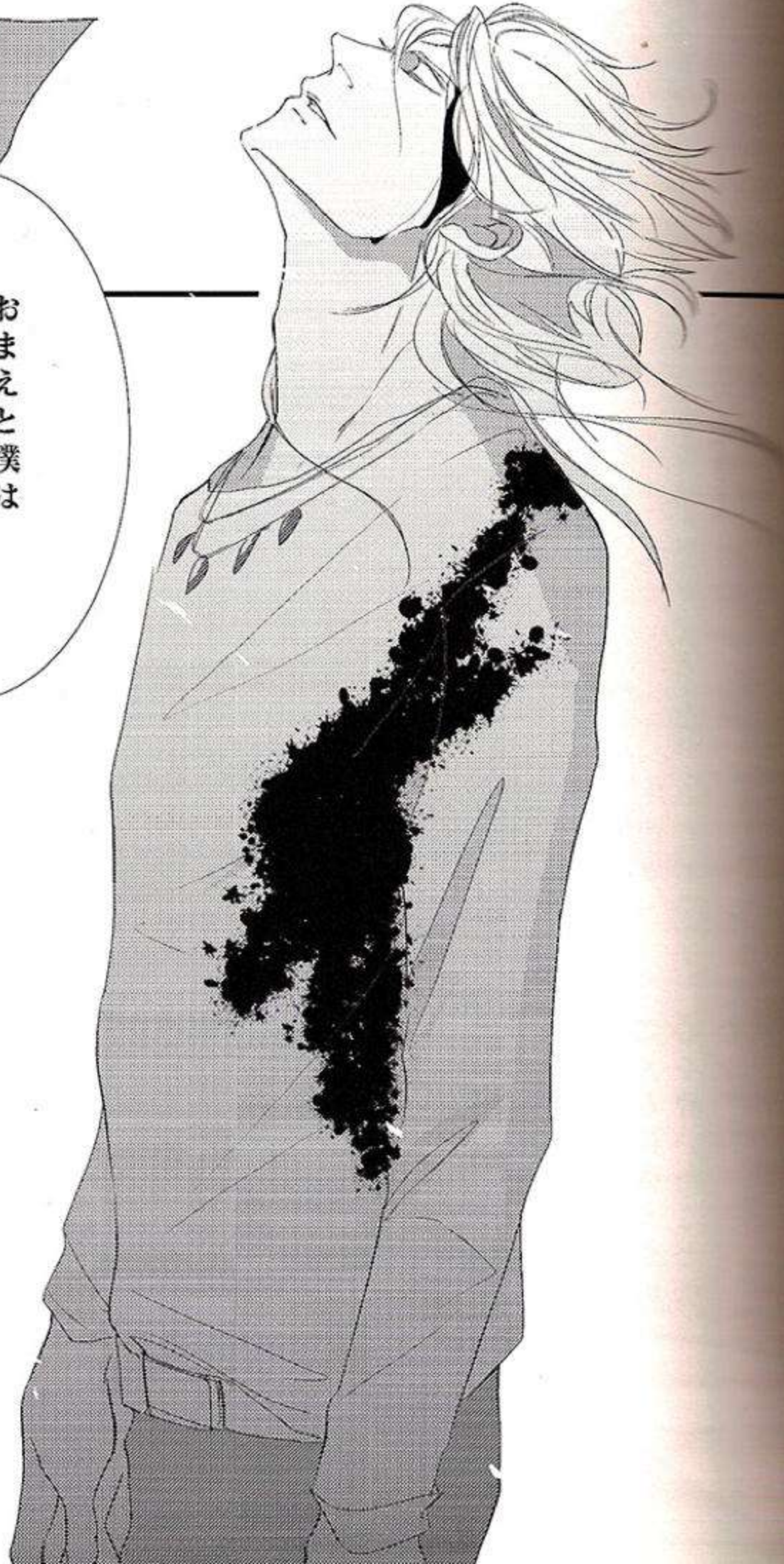
でも僕は信じたんだ



なあ、狡猾



おまえと僕は
掛け替えのない
対の人間だったと



最後まで、そう
信じさせてくれないか



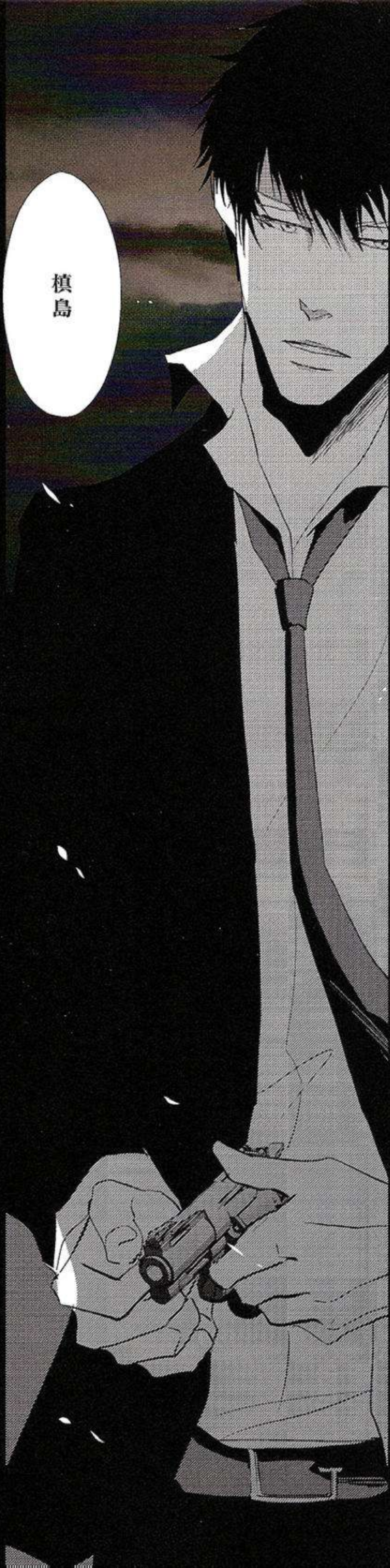
オレは今まで
誰かを

自分自身でさえ



こんなに強く想い
心を砕いたことは
なかった

榎島




クサリに
繋がれていても
まだ

自分の意思で
追い求めたい
人間がいる、と

おまえに
駆り立てられて


オレは初めて
生きてると実感したんだ




クサリを解いて
やつとそいつに
追いついたのに



手に入れた途端
失うなんて

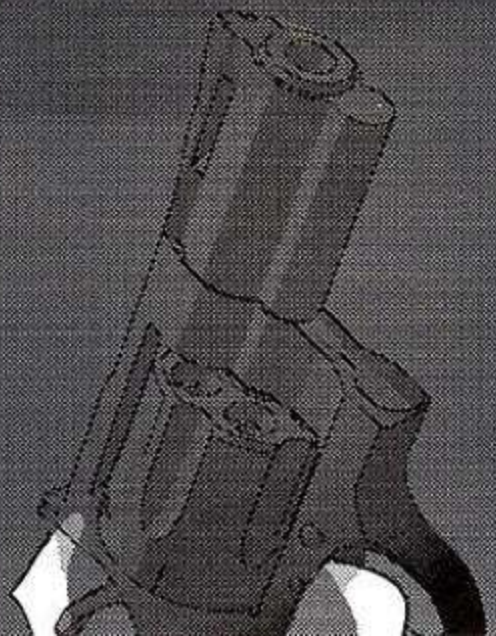


ごめんだぜ



だから
オレは

おまえのために
槇島聖護を殺すんだ



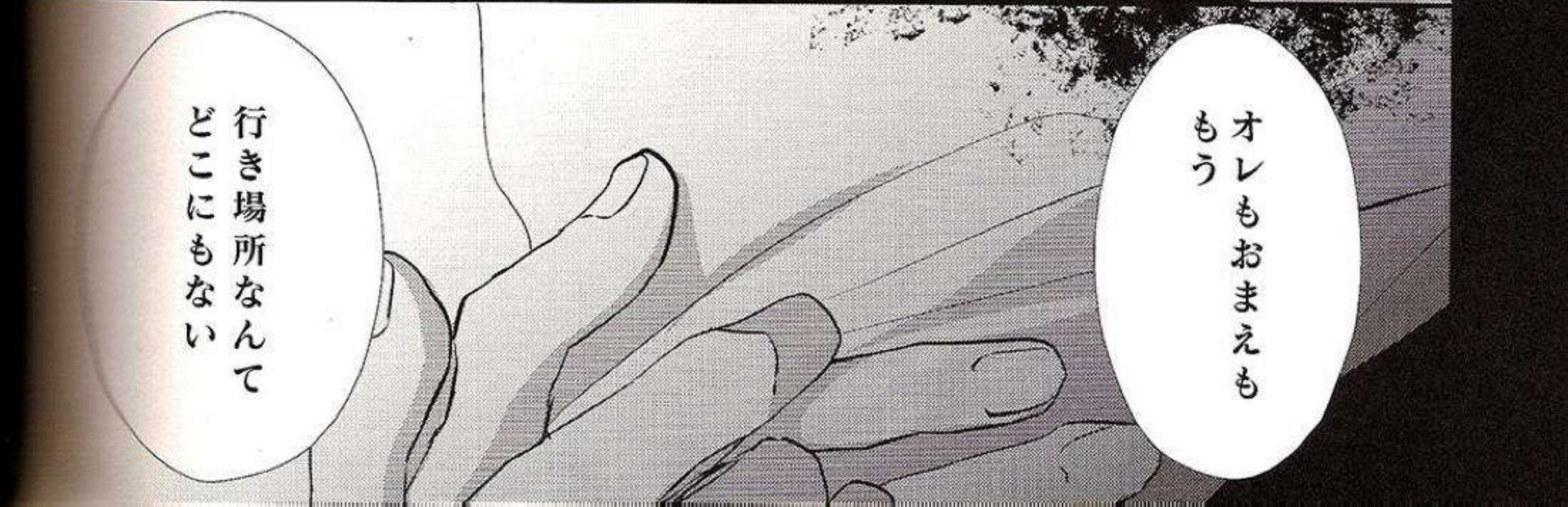


これで終わりだ



オレもおまえも
もう


行き場所なんて
どこにもない





ここより他の
別の世界に生まれていても

僕らは
めぐり逢っていたかな



なら
どんな世界にいても
めぐり逢うさ

オレとおまえは
対^つなんだろ？

何処にいても
何度でも

おまえを
見つけてやるよ

…ああ

待ってる

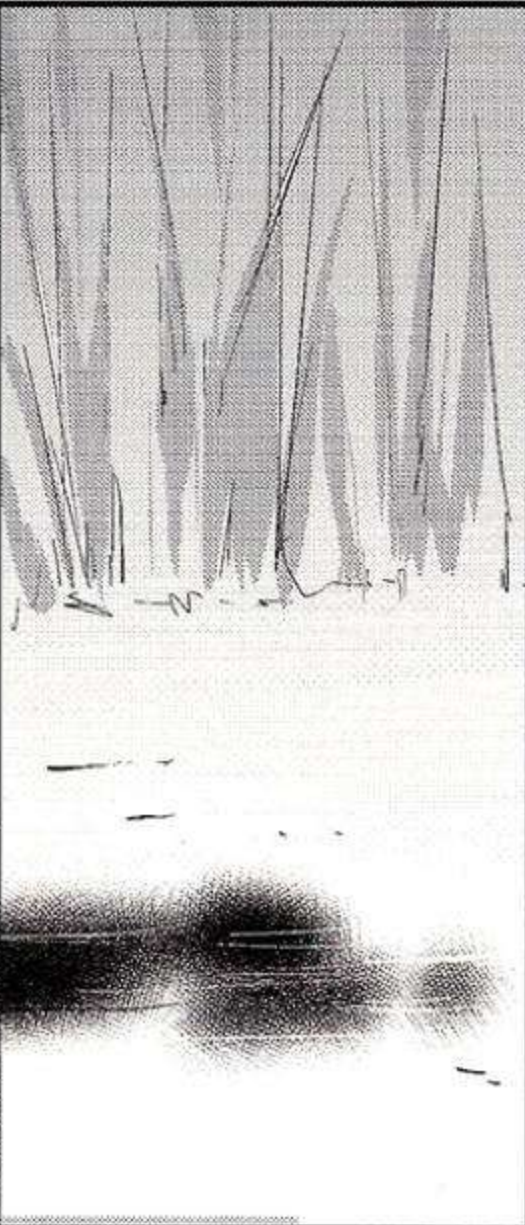


こうしていると

たった二人だけの
世界みたいだ



僕は夕闇と共に葬られ
君は朝焼けと共に解放される





う...あああッ



まさか
戻っていたとはね

フリーの
「始末屋」か

君には向いてる
かもしれんな


一年も経てば
世間はあの混乱を
忘れたが

やはりシビユラに空いた
穴を掻い潜る連中は
後を絶たない


…そうしていれば
いつか奴に
辿りつくかも、と？

生きてるんだろ


槇島聖護は




きっともう
あの街にはいない



それでも
あいつがこのまま
大人しくしてるとも
思えなくて…



猟犬はどこまでも
猟犬つてことか



それに
オレは約束した
んです

何処にいても
見つけると



槇島……!





かえり
誰かを顧みることも
誰かに顧みられることもなく


おまえはずっと
こんな空虚のなかで生きていたのか




依頼が入ってるぜ



…内容は？




さあな



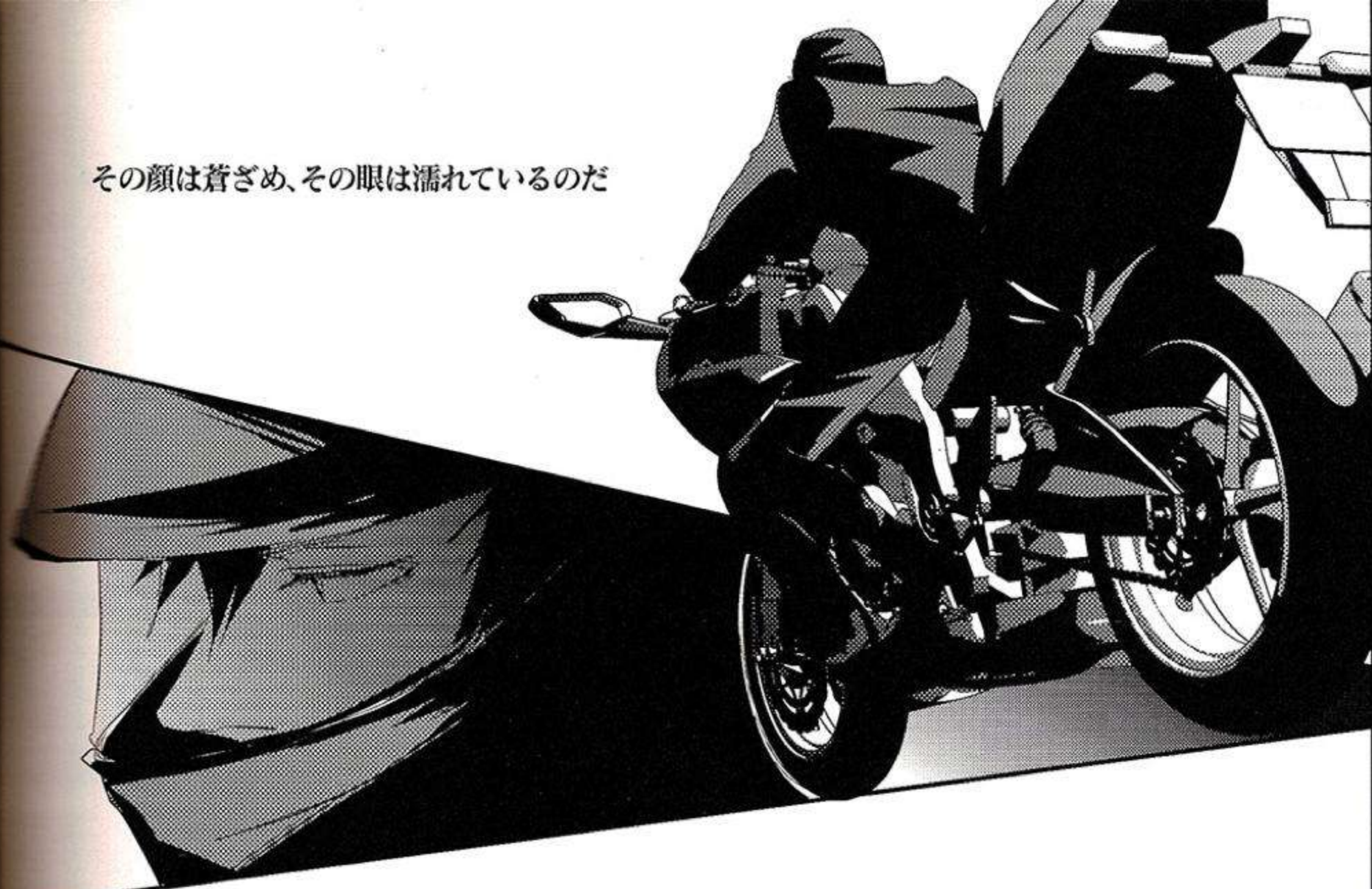
妙なヤツで
詩だか何だか

それを
残して行っちゃったよ



私に 忘れよ、という君をみよ

その顔は蒼ざめ、その眼は濡れているのだ



そのような痛みを君にあたえるよりは
わが、ほしいままの思いをこそ忘れよう






ずいぶん趣味が
変わったんじゃないか？

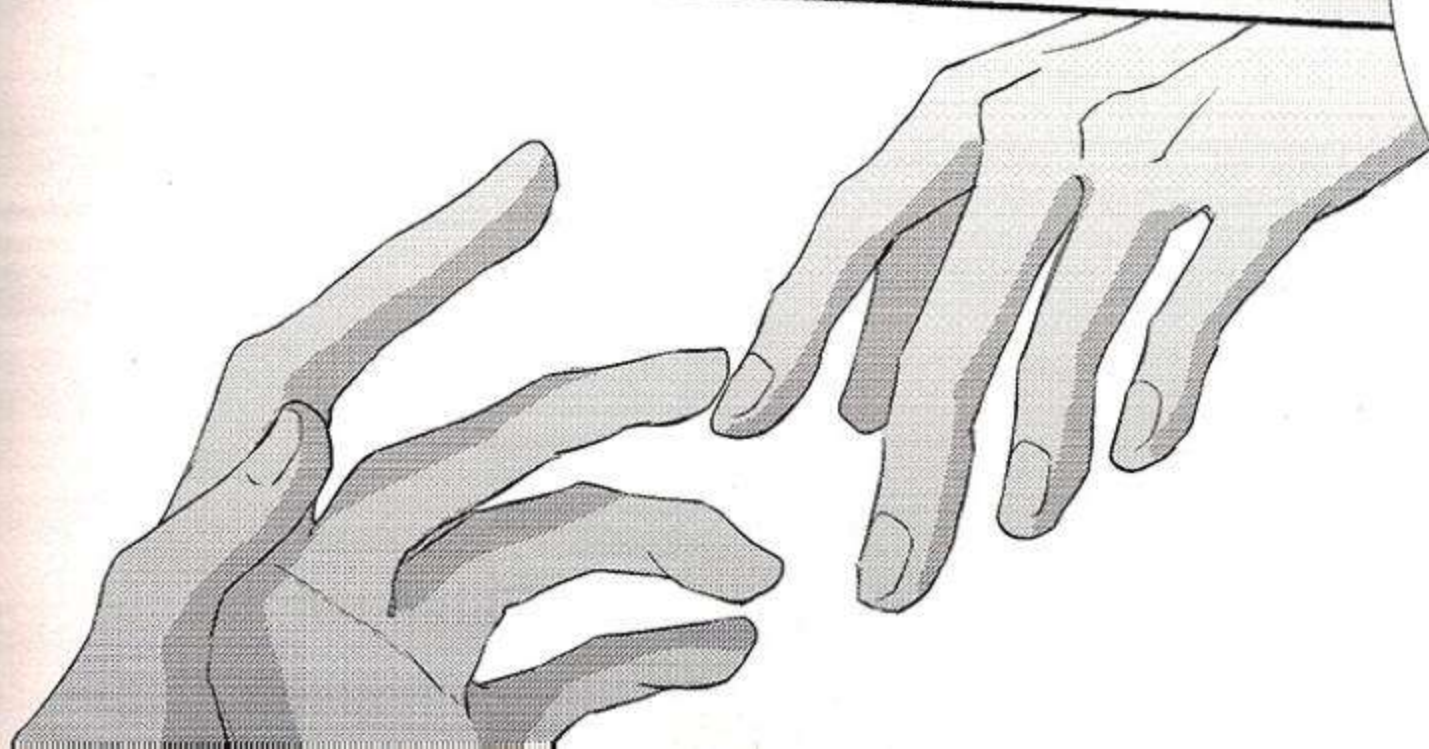
パイロンなんて



時には愛の詩も
悪くないだろう？



：遅かった
じゃないか



どこにいても
何をしても

想うのは
おまえのことで

抑えられなくなった

僕は独りじゃないと
知ってしまったから



もう
どこにも行くな

ここが
本当におまえの
居るところなんだ



うん

はっ



あは



：榎島
おまえ

ここだけでもう
こんなに
硬くなってるぜ

…っ

ま




ああ・



どうして欲しい？

聖護



おまえも：
そんな余裕が
あるとも思えないが

慎也



ふっ



ああ

ずっと
こうしたかったんだ

余裕なんて
ねえよ

あ：あッ



忘れられなかったのは

んん…っ

あ

オレのほうだ



んんん

ん

ん

あ...あ



ああ...!



んんん

...まだ
終わってねえ

あ...

こ…がみ、っ

中に

おまえの、
欲し…い
…ツん

…煽るなよ

余裕なんか
無いって

言ってる
だろ、…ッ

女、女、



狡囁

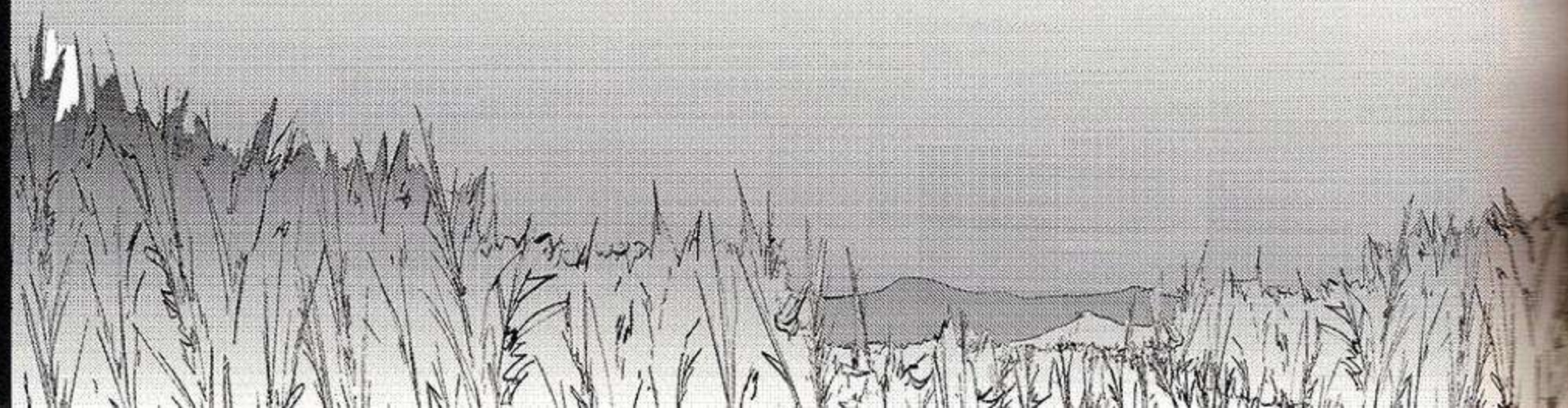
あの詩には
続きがあるんだ



私は知っている
私の失ったものが何であろうと
私から君を奪うことだけはできなかった、と



ああ、君こそは
空に最後まで消えぬただひとつの星であった



お手に取って頂きありがとうございます。
最終回の麦畑のシーンが忘れられず
こんな本になってしまいました。
おまえの代わりはいない
と狡嘴さんに言ってもらえて
とても幸せそうだった槇島さん。
でもやっぱり、生きてもっと
わかりあえたら良かったのにな
と思います。
いきなり眼帯キャラにしてしまっ
すみませんでした！

さよなら、君のいる虚ろで美しい世界
2013.5.4
avocado / 転身アマグゥリ
hiro119kuni@excite.co.jp
pixiv=976750
印刷:栄光